



○ 「青春時代」から

今回は前任校でかつて記述した内容をそのまま再度使ってみます。 ～前略～

前回、青春時代は悩んだり息詰まったりすることばかりという内容で記述しました。私自身のことを振り返ってみると、将来の自分の生活に希望・期待をもってはいましたが、どのような人生になっていくのかが未定であり不安もありました。これは誰もがそうであろうと思います。そんな青春時代ですからマイナス思考の言動を発することも多かったように思います。専門学校生は多くが卒業時に二十歳となり成人式を迎えます。そういった青春時代ど真ん中の学生たちに一つ伝えたいことを思い出しました。

人が子どもから大人へと成長していくとき、誰もが何らかの転換点を経験するように思います。今、成人式は開催時期が地域によって違いますし、状況によっては開催できない場合もあります。通常ならば1月に成人式が行われます。これに参加することも一つの転換点であろうと思います。

例によって私の思い出話になります。進学が決まって一人暮らしを始めたころ、比較的近い街に姉夫婦が住んでいましたので、月に二回程度夕食を共にしていました。しばらくして義兄から「“せんない”ということばは遣わない方がいい。」と伝えられました。それを聞いて私はハッとしました。それほど深い意図はないのですが、未熟な若者であった私は口癖のように「せんない」ということばをよく遣っていたのでしよう。義兄はすでに立派な社会人であり、その社会人である義兄から見ればマイナス思考の若者に映ったのだと思います。その時から私は遣わないように気をつけてきました。本当にありがたい一言でした。

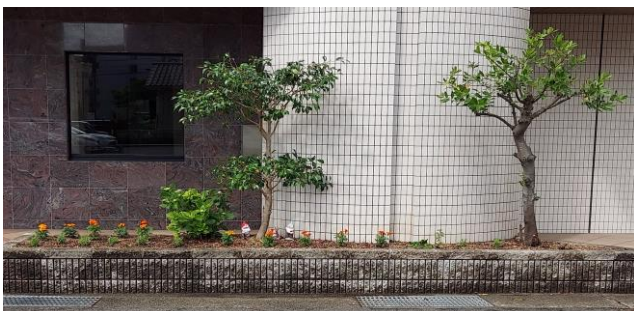
改善点を指摘してくれる人が身近にいるということはありがたいことです。年齢を重ねた私にもまだまだ改善点があると思いますが、改善点を指摘してあげる立場にもなっています。機会があればできるだけその役目を果たしたいと思います。このたよりでもときどきそんな内容を記述していますが、若者たちがどれかを自分の生活の中に生かしてくれたらたいへん嬉しいことですね。

せっかくだから「せんない」ということばを検索してみました。漢字は「詮無い」だそうです。また、「詮」は「かい」という意味があるようです。ということで「せんない」は「何かをしても報いられない。かいが無い。」というふうに記述されていました。私は「面倒くさい。」というような印象がありました。どちらにしてもあまり前向きなことばではないですね。現実の会話の中では「あ～せんな。」というふうに遣いますね。山口の方言ということでした。この文を書いていると少し疲れたような感じがしてきました。ことばを発する人よりも受け止める人のほうが疲れそうです。 ～後略～

「卒業時に二十歳となり成人式を迎えます。」という表現をしていましたが、この4月から18歳が成人となりましたので、1年間の学びで卒業する本校の学生たちも多くが19歳ですが成人ですね。

○ 自校自賛

花壇をリニューアルしました。マリーゴールドと松葉ボタンです。元気に育ってほしいと思います。



今回の植物 ジューンベリー : ブルーベリーに似た実ができます。ジャムも作るができるようです。
ビワ (枇杷) : ちょっと想像できませんが、バラ科だそうです。今、おいしい季節です。